



一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース

【 NO.142 】 2010年3月発行

会員数の増加と「社会的手抜き」

情報統計班 友利幸之介

2010年1月付けで本会の会員数は1479名。全国の士会で5番目の規模です(2008年度日本作業療法協会統計資料)。会員数は年間140名ほど増加しており、このままいけば5年後には2000人に達する見込みです。同士が増えることは喜ばしい限りですが、需要と供給のバランスや、臨床経験の浅い会員への教育など、背景に抱える課題は山積みです。この会員数の増加に伴う様々な課題は、個人レベルでは太刀打ちできません。今のうちから会員一人一人で見守りと労力を出し合い、県士会一丸となって対策を立てていく必要があると考えられます。

しかし残念ながら、近年の総会の参加状況からは本士会が一致団結しているとは言いがたい状況かもしれません。図の総会参加者数・委任状数の推移では、ここ数年会員数は急増しているものの総会参加者および委任状の数は横ばいであるため、定足数(総会員数の1/3)が徐々に低下しています。つまり、「自分一人が参加しなくても大きな会だから大丈夫」と私も含め7割近い会員が思っていたことになります。この現象を心理学用語では「社会的手抜き」と言うそうで、集団作業では人数の増加に伴い個人の参加意識が減少するようです。今後も会員数は増加するでしょうから、とにかく早急に「社会的手抜き」を打開する方策を考えなければいけません。一般的には①集団メンバー各自の成績・努力を簡単に確認できるようにする、②課題を魅力あるものにする、③集団メンバー各自に自分自身の貢献度を評価する機会を与える、④集団凝集性を強める、などがあるようです。ちなみに会員数が多い他士会では、ブロック制によって集団凝集性を高めているところもあるとか。私のようなナマケモノには⑤上から強制的に仕事をさせられる、が最も有効な手段でしたので、県士会活動に関わりを持つという点からみればブロック制も悪くないのかもしれません。事実、情報統計部の活動を通してデータベース構築の勉強をさせていただく機会ができましたし、総会成立など私にとって対岸の火事でしたが、情報統計部が事務局に統合されてからは(不覚にも)いつのまにかこの記事で一人でも多くの方々が総会に参加、もしくは委任状を提出してくださればと願うようになっています(笑)。

この現象を心理学用語では「社会的促進」と言うそうで、集団作業でも観察者がいる場合や個人の責任が明確な場合、または得意な課題を与えられると一人の時よりも個人の作業量が増加することもあるとか。仮に会員一人一人の得意分野を県士会活動に持ち寄ることで「社会的促進」が生ずるとなれば、個々人の得意分野がさらに伸びると共に、県士会へも貢献できるという良循環が起きます。妙案もないまま話はジョン・レノンのImagineなみに膨らんでいますが、文字数も超過しているため、続きは4月の総会でご議論いただきたく存じます…。

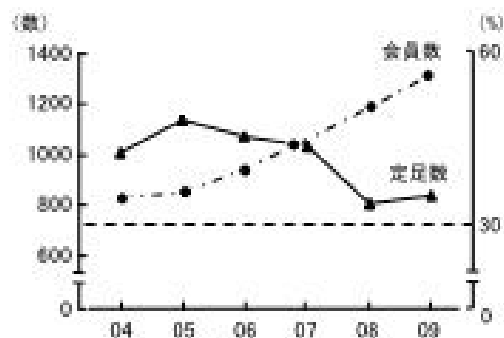


図. 総会参加者数・委任状数の推移

目次

- 1 巻頭言
- 2・3 特集「OTとは? OTと輪」
- 4 連載 アクティビティー探検隊
- 5 各部からのお知らせ
- 6・7 理事会報告・お知らせ
- 8 広報部からのお知らせ

特集 OTとは？ OTと輪！

～多職種と広げる連携の輪～

「OT と多職種との輪」をテーマにした企画連載の第3弾、今回は「音楽療法士(MusicTherapist 以下 MT)」を取り上げます。横浜相原病院でご活躍されている MT の今村ゆかりさんと笹栗良恵さんにお話を伺うことができました。

梅の花も咲き始めた2月上旬、数日前に降った雪がまだ消えずに残っている中、筆者らは瀬谷区にある横浜相原病院へと取材に向かいました。この日のセッションは、20代～50代の20名程が参加し、クローズドグループで行われました。進行役、ピアノの伴奏は MT が務め、OT は個別的介入が必要な方に付きつつ、場面全体を観察する役を担っていました。

まず歌い始めに「うぐいす」や「早春賦」という曲で季節感を味わい、軽体操で体のウォーミングアップ。引き続き、何度か練習を重ねている「翼を下さい」の二部合唱を楽しみました。休憩を挟み、再び軽く手指をほぐした後に、ハンドベルを使い、この時期ならではの「LOVE LOVE LOVE」を演奏。更に参加者からリクエストを受けて何曲か歌い、最後に個々人で今日の参加状況(プログラムへの参加姿勢や身なりなど)を振り返り、終了となりました。



左から高橋さん、今村さん
笹栗さん、竹内さん



ハンドベル

90分あまりのプログラムでしたが、飽きのこない内容で参加者皆さんの集中力も高く、時間があっという間に感じられました。特に、二部合唱では何度か練習しているとはいえ、各々が主張し過ぎずに、自身の役割に徹しており、お互いの声を聞き合ってキレイなハーモニーが奏でられていたのが印象的でした。歌が終わると歌詞カードを持ち帰った方もいらっしゃいました。「ここで練習していた曲が自分のカラオケの持ちネタになるのよ」と、今村さんも笑いながら話されていました。

それでは、MT の今村さん、笹栗さんそして今回このセッションと一緒に進めていた OT の高橋久美さん、竹内真純さんからの話をご紹介します。皆さんの日々の臨床でのひらめきにつながればと思います。

Q：音楽療法の「音楽」とは？

「音楽」という Activity を介して、「好ましい自分」と出会える場面が作れます。音楽は過去の体験記憶と繋がっていて、参加者が希望する音楽(曲・歌)は、概ね過去のプラスの体験と結び付いていることが多く、回想法的な機能もあります。また心療内科的領域では、回想的な要素よりも苦手な言語的表出法に代わる感情表出の手段として、歌詞や楽器(音楽)を使うことも出来ます。

Q：MT になるためには？ MT の活躍領域は？

大学や専門・専修大学で音楽療法に関するコースやカリキュラムで学んだ後、実際の臨床経験を積み、書類審査、面接試験、実技試験により日本音楽療法学会認定の資格が得られます。音楽に関する知識はもちろん、ただ楽しんで音楽を奏でるのではなく、対象者個々人のニーズに合わせて音楽を再構成する力と独創性が求められています。

活躍の場所としては、小児発達部門から高齢者まで幅広く、最近では緩和ケアでの活躍も目立っています。

しかし、国家資格ではないため「ボランティア」的な関わりも少なくはありません。

学会認定の療法士は全国に 1800 人程です。もし自分達の職場にも是非 MT によるセッションを、と希望する方は、日本音楽療法学会の HP(<http://www.jmta.jp/index.html>)を検索ください。

Q：横浜相原病院での仕事の内容は？

入院・通院部門併せて 5 つほどのグループを運営しています。MT がリーダーとして運営するグループもあれば、OT がリーダー役となる場合もあります。各グループ構成によって音楽の使い方や目的は様々です。例えばデイケアでは過去に楽器をやっていたというメンバーが集まり、「親父バンド」的なグループを作りました。集団セッションが主ですが、時には Dr からの依頼として個人セッションを持つ場合もあります。



セッション会場

Q：MT からみた OT とは？

セッションを行う上で必要となる対象者さんの身体機能や作業遂行能力、対人交流といった社会性の評価情報を OT から期待できますし、プログラム運営過程で得られた情報の共有もできます。

治療道具として Activity を媒体として使う、というところも私達 MT と似ている所だと思います。OT の文献を読んで、「作業」という言葉を「音楽」に読み替えても同じことが言えるのでは…と考えます。

Q：OT からみた MT とは？

一人の対象者さんを様々な作業場面で評価できるということはとても貴重だと思います。また、音楽の持つ特性を熟知している MT が音楽のセッションを持つのと OT が持つのでは同じ「音楽」を扱っていても、音楽の活かされ方、豊かさや広がりには違いを感じることもしばしばです。

日本音楽療法学会のガイドラインによれば、音楽療法とは「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」と定義されています。

また、以前音楽の効果的側面についてボイストレーナーのジョージ黒木先生からお話を伺ったところ、「音楽」の役割として、①リズムを使って受身の姿勢から能動的な参加へとシフトできる。自ら進んで、の積極性が生まれる。②集う喜び。コミュニティ、絆が生まれる。③奏でる喜び。リズムを通して音を奏でるというポジティブな環境を作り、コミュニケーションの場をつくりあげる。④達成感や連帯感を得る。ということも期待できるとおっしゃっていました。奥深いですね。



黒木先生

(黒木先生が講師を務める 塾のHPは <http://www.ne.jp/asahi/music/academy/VoiceTraning.html>)

最後に、今回の取材を通して感じたことは、作業療法では治療プログラムの中で色々な作業活動を Activity として活用しています。OT にはこれからもっと外部の専門講師とタッグを組んで、プログラム内容に幅と独自性を持たせられるような、コーディネーター的な役割も期待されているのかな…と感じました。

時代は移り変わりますが、歌とともに思い出される「ホロ苦い失恋体験」や「辛かった実習」「はしゃいだ学生時代」等はいつまでも色褪せない私達個々人の大切な記憶です。集中したい時、リラックスしたい時、沈んだ時、元気になりたい時など場合によって聴きたくなる音楽が違うように、人の気持ちや身体も日々変化しています。対象者さんのその日のムードを捉えて、OT プログラムと音楽とを上手く組み合わせてみても面白いかもしれませんね。そして音楽とともに思い出されるのは、「辛かった…」ではなく「楽しかった」記憶でありたいものです。

(取材 構成：菊地・馬場)

アクティビティ探検隊

わしらはアクティビティ探検隊

今回取材に伺ったのは「七沢リハビリテーション病院 脳血管センター」です。OTの山田喜栄子さんと小野学さんに案内と紹介をしていただきました。

案内していただいてまず思ったことは「とてもきれいに整理整頓されている」こと。道具はたくさんあるけれど、出し入れしやすく並べてあり、見た目もスッキリ。並んである道具の数々は手作りのものが多く、これらは患者さんと一緒に作ったり、作ってもらったりしたもの多いとのことでした。しかもどれも完成度が高くてきれいです。

「完成品がきれいなことも大事ですけど、これを作る課程も（治療的な観点から）とても大切です」と小野さん。つい手ごろな値段のものを治療道具として購入してそのまま使ってしまうがちですが、「作る」ことの大切さを



整理されている部屋と棚



整理整頓されているキッチン

改めて教えていただきました。

患者さん自身にモノ作りをしてもらうので、それぞれの患者さんに対応できるように道具や材料が非常に豊富にそろっており、これにもびっくり。道具の数や保管場所を決めておくなど、保管・管理もきちんとしているところも勉強になりました。

次に見せていただいたのは「片手で出来る DVD シリーズ」です。

なんとこちらは自主制作なんです！！

料理をはじめ、片手で出来る生活動作（更衣、整容動作等）や、アクティビティ、体操などさまざまな DVD がありました。

「実際に動作を行う前に患者さんに見てもらうことで、不安を持たずにOTを開始できたり、視覚的に確認できるためOTの介入がしやすくなるんですよ」と山田さん。

なるほど、自主制作してまで作る価値は十分にありそうですね。映像だけでなく、アクティビティの説明書や音声で解説したカセットテープもあり、こちらもさまざまな症状の患者さんに対応できるよう工夫されていました。カセットテープは高齢の患者さんに好評とのことでした。

ただでさえ初めての経験で不安な患者さんに、いきなり課題を与えて混乱させてしまった苦い経験は、皆さんもお持ちではないでしょうか？患者さんの理解を得やすくするための事始めとして皆さんも作ってみてはいかがでしょうか。



自主制作したDVD映像



箸の練習道具「七沢弁当」

今回の取材では、患者さんと共に道具やモノを作り、生活を作り、これからの人生を作り上げていく、作業療法の原点の一つを改めて教えていただきました。そのような作業療法を実践するためには、一人一人の患者さんに合わせた対応が出来るような環境を整えておく必要があります。

七沢リハビリテーション病院脳血管センターは、病院として長い歴史があるというだけでなく、作業療法士が患者さんと

関わっていく中で得られた様々な経験をきちんと残しているのだということを実感しました。山田さんと小野さんにはお忙しい中一つ一つを丁寧に説明していただきありがとうございました。

この連載に対する御感想、御意見、取材して欲しい病院・施設などがあればお知らせください。（矢野）

教育部

連載！「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

今年度最後の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」です。

生涯教育制度、認定作業療法士と聞くと、「あつ、関係ない！」、「やってないよ！」とつぶやく人も多くいると思います。そうは言っても気になっている方もいると思います。経験の豊富な方が改めてやってみようと思った方もいます。「今更なあ…」と思うかもしれませんが、ぜひ挑戦してみてください。専門作業療法士制度も動き始めたことですし。進めている方も、「この先どうすればいいの？」、「基礎研修までは進んだけど…」という方も多いと思います。認定作業療法士の更新、基礎研修修了の更新、してくださいね。

県士会では、生涯教育制度、生涯教育に関してかなりの力を入れています。現職者共通研修、現職者選択研修、事例報告登録制度説明会などの開催、研修会等の参加証明書のポイント化、SIG 団体登録などの関連手続きを積極的に進めています。一年で基礎研修の必須研修が修了できるよう毎年研修会を開催しています。来年度も同様に頑張って活動します。

そこで、**皆さまにお願いがあります**。年度末は気持ち的にいろんなことの見直しに最適な時期です。ご自分の生涯教育制度の進捗に関して確認や見直しをしてみませんか。「手帳がもうないよ」という方、大丈夫です！何をすればいいかわからなくなった方、今更恥ずかしいと思う方も大丈夫です。教育部にご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問できます。制度や教育部へのご意見もお待ちしております。

教育部 奥原孝幸（昭和大学保健医療学部作業療学科）

電話：045-985-6500（代） 電子メール：kyoiku@kana-ot.com

ウェブサイト管理委員会通信

「OT 協会・生涯ポイント — 管理していますか？」

研修会や OT 学会へ参加したり、実習を担当したりすると、OT 協会の生涯ポイントシールや参加証明書を受け取ると思います。このシールや参加証明書の意味については県士会教育部に説明を任せるとして、今回は、このシール&参加証明書の管理方法について県士会サイトに詳しい説明がありますので、こちらを紹介します。

http://kana-ot.com/bu/point_i.htm または、
[トップページ：上部のお役立ちコーナー：OT 協会・生涯教育制度]⇒[3 段目：基礎ポイントの管理方法]

このコンテンツは質問形式で構成されています。質問に対し該当する返答をクリックしていくと、適切な管理方法がわかります。お手元にシール・参加証明書・生涯教育受講記録を用意してぜひ試してみてください。

平成 22 年 1 月アクセスランキング

- 1 位 再学習・筋触診：記事ページ 5162 件
- 2 位 求人情報掲載板 3930 件
- 3 位 講習会・研修会 3439 件
- 4 位 イベントカレンダー 1191 件
- 5 位 現職者共通・選択研修 1140 件

平成 22 年 1 月県士会ブログランキング

- 1 位 ひよっこ OT 日記 509 件
- 2 位 大学院生兼主婦兼 OTR の日記 273 件
- 3 位 おやじ OT たちのソネット 258 件

平成 22 年 1 月

更新件数：30 件 訪問者延べ数：9313 人

Kana からの手紙発行回数：4 回

1 月末のトップページカウンタ数：462917

URL：<http://kana-ot.com/>

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田）

平成 21 年度 第 5 回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成 22 年 1 月 21 日（木曜日）19:00 ～22:00	場 所：神奈川県作業療法士会事務所
出席理事：渡邊、錠内、佐藤、浅井、奥原、木村、作田、鈴木、机、中西、野々垣、野本、原、澤口 出席監事：長谷川、清宮 出席事務局員（書記）：名古屋、中尾 その他：無し	
<各部からの報告・検討事項> ●事務局（澤口事務局長） 1) 会員動向：平成 21 年 12/31 現在 会員数 1,477 名 2) 渉外活動（賀詞交換会） （社）神奈川県放射線技師会：1/15（佐藤副会長）／（社）神奈川県臨床衛生検査技師会：1/15（錠内副会長）／（社）神奈川県病院協会：1/20（渡邊会長）／（社）神奈川県看護協会：1/28（錠内副会長） 3) 後援依頼⇒すべて承認 ・第 8 回神奈川県介護支援専門員研究大会：平成 22 年 3/28（日）、場所：レイウエル鎌倉、定員 300 名 ・高齢者、障害者のための住宅改修実践セミナー（主催：NPO 横浜市福祉用具協会）：平成 22 年 3/27（土）、場所：横浜市総合リハビリテーションセンター 4) OT 協会主催の自立支援に向けた教育者養成研修会(3/27・28)への派遣⇒地域リハ部より 1 名選出 5) OT 協会より 2010WFOT チリ大会へ県士会員 1 名の派遣依頼あり⇒鈴木理事 6) 2014WFOT 世界大会組織委員会：2/20(OT 協会事務所)⇒澤口出席 7) 千葉県作業療法士会法人設立記念式典：2/19⇒澤口出席 8) 次年度総会準備 日時：平成 22 年 4/18（日）13 時 30 分～16 時 30 分 場所：神奈川県総合医療会館 7 階大講堂。総会時に特別講演を 2 講演企画。藤原先生（夢のみずうみ村代表）、中村先生（OT 協会会長） ●財務部（野々垣理事） 1) 会費納入率：12/31 現在 現在 80%超 2) 補正予算及び次年度予算案を 2/12 までに提出 3) 監査 4/9（金） 各理事は 4/5 までに事務局へ資料提出 ●学術部（中西理事） 1) 研修会終了（12/5）・（身体分野）「リウマチ患者の上肢機能 評価と治療」講師：坂本先生（横浜市大付属病院 OT）参加者：61 名 2) 研修会等記録媒体貸し出しマニュアル(案)等について：（内容）研修会の内容を DVD に撮影し、参加出来なかった会員へ貸し出す→個人情報や著作権等の問題点あり、継続討議。 ●教育部（奥原理事） 1) 研修会終了（1/11）・現職者選択研修（精神障害）講師：佐伯 彰（神奈川病院院長）、坂本豊美（北里大学）、太田征紀（大和病院）：参加 46 名（県外 6 名） 2) 士会認定 SIG 団体の管理に関して：現在は一度認定すれば更新手続きはない。今後も更新制とはしないが、毎年活動報告を提出して頂くこととする。 ●広報部（野本理事） 1) 県士会ニュース印刷発送方法の変更：これまで施設宛ごとに発送をしていたが、会員数も 1,500 名近くとなり宛名ラベルの管理が煩雑になった。確実に会員のお手元に届くよう、準備ができ次第、今後は各会員個人宛にて発送する。また発送業者も紙面のリニューアルに伴い、紙面の構成→印刷→発送まで一括に行う業者へ変更する。	2) 班の名称変更：「OT 推進月間班」を OT 協会が提唱している「9 月 25 日は OT の日」にちなみ、今後は OT 推進活動もその前後で行う予定のため、平成 22 年から「OT の日推進班」とする。 ●福利部（澤口事務局長代読） 1) 新規事業案⇒実施の方向とする ・「職場見学会」 対象：主に新人会員や、一人職場の会員。 内容：実際に他施設を見学し諸先輩 OT へ相談できる機会の提供を行う。日程：5 月身障分野（日本鋼管病院）、7 月精神分野（未定）、11 月通所施設（未定）、2 月老健施設（未定） ●地域リハビリテーション部（木村理事） 1) 研修会開催予定： (2/14)「第 17 回 PTOT 地域ケアネットワーク合同研究会」 場所：横浜リハビリテーション専門学校 内容：「PTOT の可能性～広がる職域～」訪問リハビリステーションの方向性について、講師：森本 榮氏（日本 PT 協会理事）、船谷 俊彰氏（松下電工エイジフリーショップス株式会社、作業療法士）他 1 名 2) OT 協会「パイロット事業」について 課題：「神奈川における ALS 者のコミュニケーション障害に対する当事者、作業療法士、他の医療・福祉関連職からなる支援体制整備」県士会地域リハ部として応募⇒OT 協会にて採択された。 ⇒今後は、学術部、広報部、福祉用具委員会からも 1 名ずつ担当を選出しプロジェクトチームを作り実施していく。 3) 日本てんかん協会神奈川支部および脳卒中友の会の会合に参加⇒県士会ニュースにて報告予定 4) 訪問リハ実施事業所のウェブサイト掲載に向けて⇒来年度に詳細な調査計画を立案する。 ●福祉用具委員会（机理事） 1) 研修会終了 (12/20)「平成 21 年度 IT 活用支援での OT の役割」 場所：ウィリング横浜 講師：田中勇次郎 参加者：22 名 2) 研修会開催予定 ①自助具研修会(1/31) 場所：横浜リハビリテーション専門学校 講師：錠内広之、鴻井建三、今村実幸、安藤徹郎 ②住環境研修会(3/7) 場所：横浜市総合リハビリテーションセンター 多目的ホール 内容：建築の基礎、OT の実践 講師：現在依頼中 3) 福祉用具・自助具・住宅改修の事例集作成について 公募する際のフォーマットの案を提示した。また症例の掲載の是非（個人情報等を伴うため）を検討中との報告があった。 ●ウェブサイト管理委員会（作田理事） ウェブサイト管理のためのパソコン購入を検討しているとの報告 ●学会評議員会（奥原理事） 1) 第 13 回神奈川県作業療法学会準備情報の報告 2) 県学会の毎年開催に向けた検討結果 通常規模の学会を毎年開催するのは困難。まずは、小規模な学会と通常規模の学会を交互に開催する方法を検討中である。 ※次回の理事会：平成 22 年 3/18（木）19 時より県士会事務所 ※議事録の詳細は県士会ウェブサイトをご覧ください（文責：澤口）

第 2 回一般社団法人神奈川県作業療法士会総会は 4 月 18 日（日）場所：神奈川県総合医療会館 7 階大講堂にて行うこととなりました。今から日程調整をお願いします。（詳細は同封チラシを見て下さい）

<特別講演> 必見です!!! 大多数のご参加を・・・本当です!!!

t ①藤原 茂先生（夢のみずうみ村代表）NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」にもご出演！

②中村春基先生（OT 協会会長）・・・会長に直接ご質問したりお会いできる、格好の機会です！

	日本離床研究会主催 教育講座 「胸部レントゲン写真読影の実際」 日時：平成 22 年 3 月 13 日(土) 14:00～17:30 平成 22 年 3 月 14 日(日) 10:00～16:00 会場：東京 小松川区民会館 講師：曷川元（日本離床研究会） 根岸徹（群馬県立県民健康科学大学） 小西弘起（岸和田徳洲会病院 医師） 他 日本離床研究会講師陣 受講費：2 日間 19,800 円（税込） 「触診時に手足が冷たい、その時考えるべき 離床のリスクと評価のポイント」 日時：平成 22 年 3 月 27 日(土) 13:30～16:00 会場：東京 曳舟文化センター 講師：田雅直（大和成和病院）他 受講費：4,800 円（税込） 申込み：ホームページよりオンラインで申込み HP: http://www.world-meeting.co.jp/jsea/ 問合せ：日本離床研究会事務局 TEL: 03-3350-0526

広報部からのお知らせ

県士会ニュースは、創刊から 20 年以上経過し、本紙で 142 号を数えるまでになりました。創刊号は手書きのガリ版印刷で数十部の発行だったと伺っています。現在は 1600 部を印刷し、1400 名以上の会員に、隔月で年 6 回お送りしています。

これまでは、広報部員の記事担当者が文書を作成し、紙面レイアウトも自分たちの手で行って原稿を完成させていました。完成した原稿はメーリングリストで部員に送付して、全員で誤字脱字のチェックも行ってきました。これらは膨大な時間がかかる作業ですが、すべて無償であり、本来業務を行いながらニュースを作っていくことは部員に多大な負担をかける結果になっていました。また手作りの紙面は、いかにも作業療法的で味があると評される一方で、稚拙な紙面構成で読みにくく「かわら版」的であるといわれることもありました。

143 号より紙面がリニューアルします！

広報部では 143 号より、県士会ニュースの紙面構成・印刷・発送作業を、

(株) 第一印刷さんに依頼する予定です。県士会員のニュースを読みやすく美しくしてほしいという声に応え、また広報部員の紙面構成のための負担を軽減することが目的です。これにより、143 号はプロのデザイナーが構成する新しい紙面となります。美しく読みやすい紙面にするために、現在担当者と打ち合わせを進めている最中です。紙面の変更に伴うニュースの印刷費・発送作業費は、最小限の増加に抑えられるよう調整しています。

本紙の印刷と発送作業は、これまで横浜市内の障害者就労移行支援事業所である港風舎に依頼しており、就労を目指した作業療法のアクティビティーとしても活用されていました。港風舎さんにはこれまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

新連載記事も企画しています！

今後広報部では、レイアウトに費やす労力を取材や記事の執筆に投入し、内容の充実に努めていきます。紙面のレイアウトは変わっても、ニュースの内容はこれまでの広報部ニュース編集班のオリジナリティーあふれる記事を継承していきたいと考えています。また、部員による記事のみでなく、OT 以外の方にも原稿執筆を依頼し、会員に有益な情報を掲載する計画も立てています。

生まれ変わる県士会ニュースにご期待下さい！

一般社団法人神奈川県作業療法士会ニュース <142 号> 2010 年 3 月発行(年 6 回発行)

発行責任者 渡・慎一

編集責任者 野本義則

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・馬場順子・中村美穂・矢野竜也

印刷 発送 障害者就労移行支援事業所 港風舎

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号 TEL/FAX:045-663-5997

月火水木金 10:00~16:00 メールアドレス: jimu@kana-ot.com

❖ 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>

作業療法 神奈川

検索